

人間生活学部 学科課程
履修要項

授業科目の履修要項

1 卒業の要件

人間生活学部では学生が卒業の認定を受けるためには、下記の条件を満たす必要がある。

(1) 所定単位の修得

人間生活学科

〈2010 年度以降入学生に適用〉

人間生活学科の学生は、共通科目の中から必修 10 単位、外国語科目の中から選択必修 6 単位以上、学科専門科目の中から必修 18 単位、選択必修 20 単位以上を含めた合計 126 単位以上を修得しなければならない。

3 年次からは、「生活科学」、「社会福祉」、「地域環境」の 3 分野のいずれかの条件にしたがって履修する。

	共通科目	外国語科目	人間生活学科専門科目		
必修単位	10 単位		18 単位		
選択必修		6 単位以上	生活科学分野	社会福祉分野	地域環境分野
			生活科学演習を含め、3 年次以降開設の生活科学の科目から 20 単位以上を選択必修	社会福祉演習を含め、3 年次以降開設の社会福祉の科目から 20 単位以上を選択必修	地域環境演習を含め、3 年次以降開設の地域環境の科目から 20 単位以上を選択必修
選択単位	72 単位以上				
卒業必要単位数合計	126 単位以上				

※他学科専門科目は、8 単位まで選択単位として算入できる。

※教職に関する科目は、指定された科目のうち 8 単位まで選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目及び協定校修得科目(本学教育課程表外の科目)は、あわせて 8 単位まで選択単位として算入できる。

※他大学等で修得した単位は、8 単位まで選択単位として算入できる。

〈2009 年度入学生に適用〉

人間生活学科の学生は、共通科目の中から必修 10 単位、外国語科目の中から選択必修 6 単位以上、学科専門科目の中から必修 24 単位、選択必修 14 単位を含めた合計 126 単位以上を修得しなければならない。

単位区分 \ 授業科目区分	共通科目	外国語科目	人間生活学科 専門科目
必修単位	10 単位		24 単位
選択必修単位		6 単位以上	14 単位以上
選択単位	72 単位以上		
卒業必要 単位数	126 単位以上		

※他学科専門科目は、8 単位まで選択単位として算入できる。

※教職に関する科目は、指定された科目のうち 8 単位まで選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目及び協定校修得科目は、合せて 8 単位まで選択単位として算入できる。

※他大学等で修得した単位は、8 単位まで選択単位として算入できる。

選択必修科目

区分	科目名	選択方法
* 1	精神と QOL 子どもと QOL 生活と健康 人間関係の心理	この中から 2 科目以上 選択必修
* 2	衣環境論 食環境論 住環境論 生活経営論	この中から 2 科目以上 選択必修
* 3	児童福祉論 I 障害者福祉論 高齢者福祉論 I 介護福祉論	この中から 2 科目以上 選択必修
☆	生活の探求 A 生活の探求 B 生活の探求 C	この中から 1 科目以上 選択必修 1 科目 30 人程度に制限

〈2008 年度入学生に適用〉

人間生活学科の学生は、共通科目の中から必修 10 単位、外国語科目の中から選択必修 6 単位以上、学科専門科目の中から必修 24 単位、選択必修 14 単位を含めた合計 126 単位以上を修得しなければならない。

単位区分 \ 授業科目区分	共通科目	外国語科目	人間生活学科 専門科目
必修単位	10 単位		24 単位
選択必修単位		6 単位以上	14 単位以上
選択単位	72 単位以上		
卒業必要 単位数	126 単位以上		

※他学科専門科目は、8 単位まで選択単位として算入できる。

※教職に関する科目は、指定された科目のうち 8 単位まで選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目及び協定校修得科目は、合せて 8 単位まで選択単位として算入できる。

※他大学等で修得した単位は、8 単位まで選択単位として算入できる。

選択必修科目

区分	科目名	選択方法
* 1	精神と QOL 子どもと QOL 生活と健康 人間関係の心理	この中から 2 科目以上 選択必修
* 2	衣環境論 食環境論 住環境論 生活経営論	この中から 2 科目以上 選択必修
* 3	児童福祉論 障害者福祉論 老人福祉論 介護概論	この中から 2 科目以上 選択必修
☆	生活の探求 A 生活の探求 B 生活の探求 C	この中から 1 科目以上 選択必修 1 科目 30 人程度に制限

食物栄養学科

〈2009年度以降入学生に適用〉

食物栄養学科の学生は、共通科目の中から必修 10 単位、外国語科目の中から必修 2 単位、選択必修 4 単位以上、学科専門科目の中から必修 90 単位を含めた合計 126 単位以上を修得しなければならない。

授業科目区分 単位区分	共通科目	外国語科目	食物栄養学科 専門科目
必修単位	10 単位	2 単位	90 単位
選択必修単位		4 単位以上	
選択単位	20 単位以上		
卒業必要 単位数	126 単位以上		

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、教職に関する科目（指定科目）及び協定校修得科目は、合せて 8 単位まで選択単位として算入できる。

〈2008年度入学生に適用〉

食物栄養学科の学生は、共通科目の中から必修 10 単位、外国語科目の中から必修 2 単位、選択必修 4 単位以上、学科専門科目の中から必修 100 単位を含めた合計 126 単位以上を修得しなければならない。

授業科目区分 単位区分	共通科目	外国語科目	食物栄養学科 専門科目
必修単位	10 単位	2 単位	100 単位
選択必修単位		4 単位以上	
選択単位	10 単位以上		
卒業必要 単位数	126 単位以上		

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、教職に関する科目（指定科目）及び協定校修得科目は、合せて 8 単位まで選択単位として算入できる。

保育学科

〈2010 年度以降入学生に適用〉

保育学科の学生は、共通科目の中から必修 10 単位、選択必修 8 単位、外国語科目の中から選択必修 6 単位以上、学科専門科目の中から必修 14 単位を含めた合計 126 単位以上を修得しなければならない。

授業科目区分 単位区分	共通科目	外国語科目	保育学科 専門科目
必修単位	10 単位		14 単位
選択必修単位	8 単位以上	6 単位以上	幼免指定科目から 30 単位以上
選択単位	58 単位以上		
卒業必要 単位数	126 単位以上		

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、協定校修得科目及び他大学等で修得した科目は、合せて 8 単位まで選択単位として算入できる。

〈2009 年度以前入学生に適用〉

保育学科の学生は、共通科目の中から必修 10 単位、選択必修 8 単位、外国語科目の中から選択必修 6 単位以上、学科専門科目の中から必修 26 単位を含めた合計 126 単位以上を修得しなければならない。

授業科目区分 単位区分	共通科目	外国語科目	保育学科 専門科目
必修単位	10 単位		26 単位
選択必修単位	8 単位以上	6 単位以上	幼免指定科目から 30 単位以上
選択単位	46 単位以上		
卒業必要 単位数	126 単位以上		

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、協定校修得科目及び他大学等で修得した科目は、合せて 8 単位まで選択単位として算入できる。

2 授業科目及び履修方法

人間生活学部の授業科目は、共通科目、外国語科目、学科専門科目及び教職に関する科目に分かれている。

人間生活学科

(1) 共通科目

a. 共通科目の必修科目及び単位数は次のとおりである

聖書学概論	2 単位
キリスト教学	2 単位
人間学概論	2 単位
情報処理	2 単位
運動の実践A	1 単位
運動の実践B	1 単位
合計 6 科目	10 単位

b. 教育職員免許状の取得を希望する場合、「日本国憲法」2 単位と「情報処理」2 単位「運動の実践A」1 単位「運動の実践B」1 単位を必ず履修しなければならない。

(2) 外国語科目

a. 外国語科目のうちいずれか 6 単位以上を履修しなければならない。

b. 教育職員免許状の取得を希望する場合は、「コミュニケーション英語」「ドイツ語演習」「フランス語演習」「中国語演習」「コリア語演習」のうち、いずれか 1 科目 2 単位以上を必ず履修しなければならない。

(3) 学科専門科目

a. 学科専門科目の必修科目及び単位数は次のとおりである

2010 年度以降入学生		2008・2009 年度入学生	
スタディスキルズ	2 単位	人間生活学入門	2 単位
キャリアデザイン	2 単位	QOL 入門	2 単位
生活経営論	2 単位	人間生活学研究法	2 単位
社会福祉論Ⅰ	2 単位	自然環境論	2 単位
生活環境論	2 単位	生活環境論	2 単位
卒業研究演習	4 単位	社会福祉論Ⅰ	2 単位
卒業研究	4 単位	卒業研究演習Ⅰ	4 単位
合計 7 科目	18 単位	卒業研究演習Ⅱ	4 単位
		卒業研究	4 単位
		合計 9 科目	24 単位

b. 履修についての詳細は、履修ガイドを参照すること。

(4) 他学科専門科目

他学科専門科目を履修し単位を修得した場合は、8単位まで選択単位として卒業要件に算入できる。

他学科専門科目として履修できる学科専門科目については、各学科の「教育課程表」を参照すること。

(5) 教職に関する科目

- a. 教職に関する科目は、教育職員免許状の取得のために開設している科目であるが、指定された科目のうち8単位まで、卒業要件の自由選択単位に含むことができる。教育職員免許状の資格取得を希望する場合は、教職員課程履修要項に従って免許状取得に必要な単位を履修しなければならない。
- b. 卒業要件として含めることができる科目は、以下の内8単位までとする。

教師論	中等家庭科教育法Ⅳ
教育原理	福祉科教育法Ⅰ
教育心理学Ⅰ	福祉科教育法Ⅱ
教育心理学Ⅱ	道德教育
教育制度論	特別活動
教育課程研究	教育方法論
中等家庭科教育法Ⅰ	生徒指導
中等家庭科教育法Ⅱ	教育相談
中等家庭科教育法Ⅲ	

※ 総合演習（2009年度以前入学生）、教職実践演習（中・高）（2010年度以降入学生）、教育実習ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲ、介護等体験は除く

(6) 他学部学科専門科目

文学部の学科専門科目（他学部学科専門科目）を履修し単位を修得した場合は、8単位まで選択単位として卒業要件に算入できる。

履修についての詳細は、文学部の教育課程表及び履修ガイドを教務係で閲覧、確認すること。

食物栄養学科

(1) 共通科目

a. 共通科目の必修科目及び単位数は次のとおりである。

聖書学概論	2 単位
キリスト教学	2 単位
人間学概論	2 単位
情報処理	2 単位
運動の実践A	1 単位
運動の実践B	1 単位
合計	6 科目 10 単位

b. 教育職員免許状の取得を希望する場合は、「日本国憲法」2 単位と「情報処理」2 単位を履修しなければならない。

(2) 外国語科目

a. 「総合英語」2 単位は必修である。そのほかに 4 単位以上、合計 6 単位以上を履修しなければならない。

b. 教育職員免許状の取得を希望する場合は、「コミュニケーション英語」「ドイツ語演習」「フランス語演習」「中国語演習」「コリア語演習」のうち、いずれか 1 科目 2 単位以上を必ず履修しなければならない。

(3) 学科専門科目

a. 学科専門科目の必修単位数は以下のとおりである。

2009 年度以降入学生	90 単位
2008 年度入学生	100 単位

b. 学科専門科目の履修については、教育課程表および履修ガイドを参照すること。

(4) 他学科専門科目

他学科専門科目の履修については、各学科の教育課程表を参照すること。

他学科専門科目を履修し単位を修得した場合は、指定された教職に関する科目及び他学部学科専門科目と合わせて 8 単位までとする。

(5) 教職に関する科目

a. 教職に関する科目は、教育職員免許状の取得のために開設している科目であるが、指定された科目のうち 8 単位まで、卒業要件の自由選択単位に含むことができる。教育職員免許状の資格取得を希望する場合は、教職課程履修要項に従って免許状取得に必要な単位を履修しなければならない。

b. 卒業要件として含めることができる科目は、以下の内 8 単位までとする。

教師論	道徳教育(栄養教諭)
教育原理	特別活動(栄養教諭)
教育心理学Ⅰ	教育方法論(栄養教諭)
教育心理学Ⅱ	生徒指導(栄養教諭)
教育制度論	教育相談
教育課程研究(栄養教諭)	

※教職総合演習(2009年度入学生まで)、教職実践演習(栄養教諭)(2010年度以降入学生)、栄養教育実習Ⅰ・Ⅱは除く

(6) 他学部学科専門科目

文学部の学科専門科目(他学部学科専門科目)を履修し単位を修得した場合は、他学部学科専門科目及び指定された教職に関する科目と合わせて8単位まで選択単位として卒業要件に算入できる。

履修についての詳細は、文学部の教育課程表及び履修ガイドを教務係で閲覧、確認すること。

保育学科

(1) 共通科目

a. 共通科目の必修科目及び単位数は次のとおりである

聖書学概論	2単位
キリスト教学	2単位
人間学概論	2単位
情報処理	2単位
運動の実践A	1単位
運動の実践B	1単位
合計 6科目	10単位

その他8単位以上を履修しなければならない。

b. 幼稚園教諭免許状の取得を希望する場合は、「日本国憲法」2単位、「情報処理」2単位、「運動の実践A」1単位、「運動の実践B」1単位を修得しなければならない。保育士資格の取得を希望する場合は、「運動の実践A」1単位、「運動の実践B」1単位を履修しなければならない。

(2) 外国語科目

a. 外国語科目のいずれか6単位以上を履修しなければならない。

b. 幼稚園教諭免許状の取得を希望する場合は、「コミュニケーション英語」、「ドイツ語演習」、「フランス語演習」、「中国語演習」、「ロシア語演習」のうち、いずれか1科目2単位以上を必ず履修しなければならない。

(3) 学科専門科目

- a. 必修科目として 2009 年度以前入学生は 26 単位、2010 年度以降入学生は 14 単位、選択必修科目として幼免指定科目から 30 単位以上を履修しなければならない。
- b. 幼稚園教諭免許状、保育士資格、特別支援学校教諭免許状、社会福祉主事資格(任用資格)の取得を希望する場合は、別項にそれぞれ指定された科目を履修しなければならない。

(4) 他学科専門科目・他学部学科専門科目・協定学校修得科目及び他大学等で修得した科目

これらの履修については、合わせて 8 単位まで選択単位として卒業要件に算入できる。

履修についての詳細は、それぞれの教育課程表および履修ガイドを教務係で閲覧確認すること。

3 学 期

学期は前期(4月～9月)と後期(9月～3月)の2学期とし、各学期は、15週を原則とする。

4 授 業 時 間

授業は次の時間割によって行われる。

講 時	時 間	時 限	時 間
I	9:00~10:30	1	9:00~9:45
		2	9:45~10:30
II	10:40~12:10	3	10:40~11:25
		4	11:25~12:10
III	13:00~14:30	5	13:00~13:45
		6	13:45~14:30
IV	14:40~16:10	7	14:40~15:25
		8	15:25~16:10
V	16:20~17:50	9	16:20~17:05
		10	17:05~17:50

5 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とし、科目に

よってその基準は異なる。

- (2) 実験、実習、実技については、30 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位とし、科目によってその基準は異なる。
- (3) 卒業論文及び卒業研究の授業科目については、学修の成果を評価し所定の単位を授与する。

6 単位修得の要件

- (1) 所定の履修登録を完了すること。
- (2) 欠席時（回）数が総授業時（回）数の 1/3 を超えないこと。
- (3) 試験またはレポート等による成績が合格点（60 点以上）であること。

7 既修得単位の認定

- (1) 既修得単位の認定の申請ができる者は、本学または他の大学を卒業または中途退学し、新たに 1 年目に入学した者に限られる。
- (2) 本学が教育上有益と認めるときは、学則第 19 条の 4 第 1 項及び第 2 項の定めるところにより、既に修得した単位について、60 単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認定することができる。
- (3) 既修得単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書に卒業証明書および成績証明書を添えて、新年度の履修登録期限前に申請することができる。教職課程の科目について既修得単位の認定を受けようとする者は、さらに単位修得証明書も添えること。

8 札幌圏大学・短期大学単位互換制度（Green Campus）による単位互換認定

- (1) 札幌圏大学・短期大学単位互換制度（Green Campus）に、「単位互換履修生」として履修できるのは、2 年生以上の学生である。
- (2) 「単位互換履修生」は、本学で開講されていない科目について年間 10 単位まで履修することができる。修得単位は卒業要件（選択単位）として算入することができる。算入できる単位数は別に定める。
- (3) 「単位互換履修生」は、各大学・短期大学の図書館を利用できる。
- (4) 「単位互換履修生」は、学費の負担はない。ただし、実験・実習・演習費については徴収する場合はある。

※ 本学では、人間生活学部人間生活学科、保育学科が対象となる。

実際の手続きの詳細については、2 年次以降のガイダンスにて説明するので、その指示に従うこと。

9 履修登録

入学年度の教育課程表および履修ガイドを参考に卒業までの履修計画をたて、その年度に履修するすべての授業科目について、履修登録をしなければならない。

(1) 履修登録についての注意事項

- ① 教育課程表により配当されている所定年次（学科・クラス指定のある科目は指定クラス）の授業科目を履修しなければならない。
- ② 履修登録した科目でなければ履修することはできない。
- ③ すでに単位を修得・認定された授業科目の再履修は認められない。
- ④ 同一時限に2科目以上の履修は認められない。

(2) 履修登録単位数の上限

履修登録をした授業科目の履修にあたっては、単位修得にむけて最善の努力をしなければならない。

自学自習の時間を考慮し、卒業要件を年次配分し無理なく履修計画を立てた場合、年間40単位前後の履修で、3年次までに卒業要件の総単位数〈126単位〉は修得できることになる。

人間生活学部では、卒業要件と同時に資格取得等を考慮し、年間履修登録単位の上限を下記のとおり定めている。

〈2011年度入学生に適用〉

履修上限単位

学年	1年	2年	3年	4年
単位数	49	49	49	49

- ※ 人間生活学科、食物栄養学科の上限単位の中に、教職課程科目、図書館情報学課程科目を含まない。
- ※ 保育学科の上限単位の中に、図書館情報学課程科目を含まない。
- ※ 人間生活学科の上限単位の中に、社会福祉士受験資格に関する科目のうち、社会福祉論Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ、児童福祉論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅲ、ソーシャルワーク論Ⅳ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅰは含まない。
- ※ 食物栄養学科の上限単位の中に、学科専門科目のうち、はじめての化学、文章表現演習Ⅰ、文章表現演習Ⅱは含まない。
- ※ 人間生活学科では、編入生、転部・転科生に上限を超えて履修を認めることもある。
- ※ 食物栄養学科では、編入生に上限単位を超えて履修を認めることもある。

〈2009・2010年度入学生に適用〉

履修上限単位

学年	1年	2年	3年	4年
単位数	49	49	49	49

- ※ 人間生活学科、食物栄養学科の上限単位の中に、教職課程科目、図書館情報学課程科目を含まない。
- ※ 保育学科の上限単位の中に、図書館情報学課程科目を含まない。

- ※ 人間生活学科の上限単位の中に、社会福祉士受験資格に関する科目のうち、社会福祉論Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ、児童福祉論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅲ、ソーシャルワーク論Ⅳ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅰは含まない。
- ※ 人間生活学科では、編入生・転部・転科生に上限を超えて履修を認めることもある。
- ※ 食物栄養学科では、編入生に上限単位を超えて履修を認めることもある。

〈2008年度入学生に適用〉

履修上限単位

学年	1年	2年	3年	4年
単位数	49	49	49	49

- ※ 人間生活学科、食物栄養学科の上限単位の中に、教職課程科目、図書館情報学課程科目を含まない。
- ※ 保育学科の上限単位の中に、図書館情報学課程科目を含まない。
- ※ 人間生活学科では、編入生・転部・転科生に上限を超えて履修を認めることもある。
- ※ 食物栄養学科では、編入生に上限単位を超えて履修を認めることもある。

無計画な履修登録をし、過重負担にならないよう心がけること。

(3) 履修登録の期間

4月8日(金)～16日(土)

〈ただし、後期開講科目については、卒業要件・進級条件と免許・資格取得にかかわる科目のみ9月12日(月)～14日(水)の期間に追加登録することができる。〉

10 試 験

試験は、授業期間中に担当者指示によって行われ、レポート、作品等の提出の場合もある。

- 追試験 (1) 追試験は、病気その他やむを得ない理由で試験を欠席した者が、「試験欠席届（追試験願）」を提出して、それが認められた場合に行う試験である。
- (2) 追試験を願い出る者は、定められた期日までに下記証明書等を添えて「試験欠席届（追試験願）」を教務係に提出しなければならない。
- (3) 追試験の受験料は1科目500円とする。(ただし公認欠席、出席停止の場合は受験料を徴収しない)

(4) 追試験の受験資格

下記の事由により、受験が認められる。ただし、所定の書類を提出すること。

1. 就職試験……………受験票写、受験先証明書
2. 公的交通機関の遅延……………当該交通機関の発行する遅延証明書
3. 学校保健法施行規則第 18 条
第一種～第三種による学校感染症……………医師の診断書
4. 不意の疾病……………医師の診断書またはこれに準ずるもの
5. 交通事故……………事故証明書
6. 学外実習……………実習担当者の証明
7. その他やむを得ない理由……………その事由を証明するもの

※ 上記の理由以外について追試験を認める場合があるが、試験に合格したときの成績評価は、60 点とする。

※ 原則として、前期追試験は 9 月、後期追試験は 2 月に日時を定めて行う。

試験に関する注意事項

試験受験の際には学生証が必要です。学生証が無ければ試験は受験できません。(期間外試験も同様です。)

学生証を忘れた場合は仮受験票を発行しますので教務係へ来てください。

1. 受験にあたっては、監督者の指示に従うこと。
2. 遅刻者の入室は、試験開始後 25 分以内とする。
3. 試験期間中は長机（3 人掛け）の真ん中の席は使用しないこと。
4. 特別に持ち込みを許可されたもの以外は、机上においてはならない。
5. 不正行為は絶対行わないこと。不正行為を行った者は、
 - (1) 該当科目を不認定とする。
 - (2) 学則による懲戒処分対象となり学籍原簿への記載がなされ永久に記録される。
 - (3) 処分内容は、保証人へも通知される。

11 成績

1. 成績の評価は次のとおりである。

評価基準

優	100～80	合格
良	79～70	
可	69～60	
不可	59～0	不合格
放棄	×	

- ※ 優・良・可を合格、不可を不合格とする。
- ※ 不可および放棄は、成績証明書には表記しない。
- ※ 試験(レポート提出)欠席者で追試験の届け出がない者、欠席が1/3以上の者は放棄として扱う。
- ※ 2009年度以降に実施される短期語学研修の場合は、成績評価を行わず単位認定のみとする。

2. 履修科目の成績は、成績通知書を各自に交付し通知する。

成績通知書の交付

前期	9月12日(月)	全学年	教務係
後期	3月1日(木)	全学年	

在学生の保証人(親・学費負担者)に前年度成績及び当年度履修科目を5月中旬と9月下旬の年2回通知する。

12 進級に必要な単位数

	人間生活学部		
	人間生活学科	食物栄養学科	保育学科
卒業要件単位	2年次終了までに50単位以上を取得しておかなければならない。	2年次終了までに50単位以上を取得しておかなければならない。 3年次終了までに90単位以上を取得しておかなければならない。	2年次終了までに49単位以上を取得しておかなければならない。

※海外留学協定校に留学した(もしくは留学中の)学生には適用しない。

履修の手引き

人間生活学科

1 カリキュラムの概要

人間生活学科では、衣・食・住をはじめとする生活を確実に豊かにする「生活科学」、様々な状況におかれた人々が共に生きる社会を目指す「社会福祉」、暮らしを育む地域や環境の創出と調和に取り組む「地域環境」の3分野にまたがる学習を通じて、ライフスタイルをデザインし、ヒューマンライフをサポートする実践的な能力を培います。

このため、本学科の専門科目群は、以下のような生活科学・社会福祉・地域環境の3分野で構成されています。

この3分野の科目群から興味や関心に従って幅広く学ぶ、専門性を深める、あるいは卒業後の志望進路に沿って、自分で学びたい科目を選んで履修します。

『生活科学』

衣・食・住をはじめ、家族論、生活経営、消費者問題などの生活科学を横断的・総合的に学習します。情報が錯綜し価値観が多様化する現代社会の「生活」を確実かつ安全で豊かなものにするために必要な知識・技術を修得するための科目が配置されています。多くの科目が、教員免許（家庭）取得に必要な科目と重なっています。

『社会福祉』

社会生活をサポートする福祉マインド（福祉のこころ）を学び、生活上の困難や障害を有する人々への支援や共生社会を目指すために必要な科目が配置されています。多くの科目が社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目、教員免許（福祉）取得に必要な科目と重なっています。

『地域環境』

人々が生活する地域社会の成り立ちや、環境、文化などを理解し、資源活用や人々の関わり方を通じた地域づくり・環境形成のために必要な科目が配置されています。フィールドワークを通して地域の特性や課題の捉え方を実践的に学び、新たな時代の地域づくりや環境形成に貢献する能力を培います。

これらの3分野の科目群のほか、『総合』に区分されている専門科目群があります。1年次の「スタディスキルズ」「キャリアデザイン」、2年次の「プレゼンテーション」は、大学での学習方法・目標を確認したり、表現法や伝え方を学ぶ基礎的な科目です。3年次の「人間生活演習」「個別課題演習」は、3分野の学びを総合したり、個別に設定した課題に取り組めます。4年次の「テーマ研究」や「卒業研究」は、4年間の大学での学習の集大

成として自ら問いかけて学びを統合することを目標に展開します。

なお、『総合』に区分されている「コミュニケーション論」「同演習」は、『社会福祉』に区分されている「ソーシャルワーク演習」と同様の内容です。資格取得のための「ソーシャルワーク演習」を選択しない学生は、「コミュニケーション論」「同演習」を履修してください。

各分野の専門科目は初年次から配置されていますが、1～2年次の学習は、共通科目や外国語の科目群へのウェイトが高くなります。こうした科目群は、本学建学の叡智を理解し、大学生としての教養を深め、外国語の修得や実用化を図るものです。

本学科では次項に示す免許状・資格が取得可能です。これらに必要な科目群の多くは1年次から履修が始まるので、可能性を閉ざさないよう熟慮して履修計画を立ててください。

また、他学科の科目や、札幌圏大学・短期大学単位互換制度（通称：グリーンキャンパス、2年次以降対象、17ページ参照）の科目、あるいは教職に関する科目も、制限はありますが卒業単位に含めることができます（13ページ参照）。なお、他学科で開講される科目を履修する場合は、受け入れの可否を各学科の教育課程表で確認してください。

このほか、1年間に履修登録できる単位には上限があります。また、2年次終了までに50単位以上を取得していない場合は3年次に進級できません（21ページ参照）。

3年次に進級する際、各自の学習したいテーマを考えて、指導してほしい教員が所属する分野のゼミ（「生活科学演習」「社会福祉演習」「地域環境演習」の中から1つを選択）を選びます。その際、学習したいテーマや指導してほしい教員について複数の希望をとり、ゼミが10名弱の少人数になるよう調整します。ゼミでは、担当教員と学生とが対話的なプロセスに基づいてテーマを設定して学習します。

3年次のゼミは研究を進めるための基礎的なトレーニングを行い、4年次の「卒業研究演習」では各自が研究テーマを設置して学習を集成し、さらに「卒業研究」に取り組み、4年間の学習の成果を卒業論文へと結実させます。

このほか、4年次に配置されている「テーマ研究」は、各分野に属する複数の教員がチーム・ティーチング形式で担当し、総合的に考察したり、実践する力を養います。

2 人間生活学科で取得可能な免許状・資格一覧

- ・ 中学校教諭一種免許状（家庭）
- ・ 高等学校教諭一種免許状（家庭、福祉）
- ・ 社会福祉士国家試験受験資格
- ・ 社会福祉主事任用資格
- ・ 司書となる資格
- ・ 司書教諭

3 履修モデル

ここに示した履修モデルは、人間生活学科の卒業要件をもとに、さらに各種資格を取得するための要件を中心とした標準的なモデルに過ぎません。各自の学修目的によって異なりますので、これらを参考にして自らの履修計画を立ててください。

(1) 人間生活学科を卒業するための必要単位

	1年	2年	3年	4年
共通科目	聖書学概論 必修2単位 キリスト教 必修2単位 人間学概論 必修2単位 情報処理 必修2単位 運動の実践A 必修1単位 運動の実践B 必修1単位			
	選 択 科 目			
外国語科目	選択必修 6単位以上			
学科専門科目	スタディスキルズ 必修2単位 キャリアデザイン 必修2単位 生活経営論 必修2単位 社会福祉論Ⅰ 必修2単位 生活環境論 必修2単位			卒業研究演習 必修4単位 卒業研究 必修4単位
	選 択 必 修 科 目 20 単 位 以 上 (★下記を参照)			
	選 択 科 目			
他学 科 専 門 科 目	他学科開講科目のうち、8単位まで選択可			
教職に関する 科 目	* 指定科目のうち、8単位まで選択可			
他学部学科専 門科目及び協 定校修得科目 (本学教育課 程表外の科 目)	合わせて8単位まで選択可			
他大学等 で 修 得 し た 科 目	8単位まで選択可			

* 指定科目とは、[教職に関する科目]のうち、「教育実習ⅠA」、「教育実習ⅠB」、「教育実習Ⅱ」、「教育実習Ⅲ」、「介護等体験」、「総合演習」を除いた科目。

★選択必修科目 20単位以上

生活科学分野	社会福祉分野	地域環境分野
生活科学演習を含め、3年次以降開設の生活科学の科目から20単位以上を選択必修	社会福祉演習を含め、3年次以降開設の社会福祉の科目から20単位以上を選択必修	地域環境演習を含め、3年次以降開設の地域環境の科目から20単位以上を選択必修

- ・ 3年次に「生活科学演習」「社会福祉演習」「地域環境演習」（いずれも3年通年4単位）の中から1科目のみ選択必修。
- ・ 上表3分野のいずれかの条件にしたがって履修。
- ・ 選択した分野以外の開設科目の履修可（但し、履修に条件を付している場合を除く）。

(2) 人間生活学科の各資格を取得するための必要単位

モデル1：卒業＋教員免許取得（中一種〈家庭〉・高一種〈家庭〉）

	1年	2年	3年	4年
共通科目	聖書学概論 必修2単位 キリスト教 必修2単位 人間学概論 必修2単位 情報処理 必修2単位 運動の実践A 必修1単位 運動の実践B 必修1単位			
	選 択 科 目			
	このうち、教員免許取得のためには、「日本国憲法」（2単位）が必修			
外国語科目	選択必修 6単位以上			
	このうち、教員免許取得のためには、「コミュニケーション英語」、「ドイツ語演習」、「フランス語演習」、「中国語演習」、「コリア語演習」から、いずれか1科目2単位必修			
学科専門科目	スタディスキルズ 必修2単位 キャリアデザイン 必修2単位 生活経営論 必修2単位 社会福祉論Ⅰ 必修2単位 生活環境論 必修2単位			卒業研究演習 必修4単位 卒業研究 必修4単位
	選 択 必 修 科 目 20 単 位 以 上			
	選 択 科 目			
	このうち、教員免許取得のための「教科に関する科目」（家庭）20単位以上を含めること			
他 学 科 専 門 科 目	他学科開講科目のうち、8単位まで選択可			
教職に関する 科 目	該当教科の指導法を含めた必修単位			
他学部学科専 門科目及び協 定校修得科目 （本学教育課 程表外の科 目）	合わせて8単位まで選択可			
他 大 学 等 で 修 得 した 科 目	8単位まで選択可			

【留意点】モデル1の場合

公立学校の教員採用試験には〈家庭〉の募集枠がありますが、最近、〈家庭〉と〈福祉〉の両方の教員免許を取得している受験者が採用される傾向が強まっています。家庭科の教員を目ざす場合、〈福祉〉の教員免許も合わせて取得することを勧めます。

詳しくは、学科や教職担当の専任教員及び教務係に相談して下さい。

モデル2：卒業＋教員免許取得（中・高一種〈家庭〉＋高一種〈福祉〉）

	1年	2年	3年	4年
共通科目	聖書学概論 必修2単位 キリスト教 必修2単位 人間学概論 必修2単位 情報処理 必修2単位 運動の実践A 必修1単位 運動の実践B 必修1単位			
	選 択 科 目			
	このうち、教員免許取得のためには、「日本国憲法」（2単位）が必修			
外国語科目	選択必修 6単位以上			
	このうち、教員免許取得のためには、「コミュニケーション英語」、「ドイツ語演習」、「フランス語演習」、「中国語演習」、「ロシア語演習」の中から、いずれか1科目2単位必修			
学科専門科目	スタディスキルズ 必修2単位 キャリアデザイン 必修2単位 生活経営論 必修2単位 社会福祉論Ⅰ 必修2単位 生活環境論 必修2単位			卒業研究演習 必修4単位 卒業研究 必修4単位
	選 択 必 修 科 目 20 単 位 以 上			
	選 択 科 目 このうち、教員免許取得のための「教科に関する科目」（家庭）20単位以上と「教科に関する科目」（福祉）20単位以上を含めること			
他学科専門科目	他学科開講科目のうち、8単位まで選択可			
教職に関する科目	該当教科の指導法を含めた必修単位			
他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）	合わせて8単位まで選択可			
他大学等で修得した科目	8単位まで選択可			

【留意点】モデル2の場合

本学科では〈福祉〉の教員免許取得が可能ですが、これだけでは教員採用の機会が少なく現実的ではありません。また、教育実習を受け入れる高校もわずかなので、〈家庭〉の教員免許も合わせて取得することを勧めます。

詳しくは、学科や教職担当の専任教員及び教務係に相談して下さい。

モデル3：卒業＋社会福祉士国家試験受験資格取得

	1年	2年	3年	4年
共通科目	聖書学概論 必修2単位 キリスト教 必修2単位 人間学概論 必修2単位 情報処理 必修2単位 運動の実践A 必修1単位 運動の実践B 必修1単位			
	選 択 科 目			
	このうち「社会学」「心理学」の2科目4単位必修			
外国語科目	選択必修 6単位以上			
学科専門科目	スタディスキルズ 必修2単位 キャリアデザイン 必修2単位 生活経営論 必修2単位 社会福祉論Ⅰ 必修2単位 生活環境論 必修2単位			卒業研究演習 必修4単位 卒業研究 必修4単位
	選 択 必 修 科 目 20 単 位 以 上			
	選 択 科 目			
	このうち、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「指定科目」 34科目74単位必修（「社会福祉論Ⅰ」を含む）			
他学科専門科目	他学科開講科目のうち、8単位まで選択可			
教職に関する科目	* 指定科目のうち、8単位まで選択可			
他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）	合わせて8単位まで選択可			
他大学等で修得した科目	8単位まで選択可			

* 指定科目とは、[教職に関する科目]のうち、「教育実習ⅠA」、「教育実習ⅠB」、「教育実習Ⅱ」、「教育実習Ⅲ」、「介護等体験」、「総合演習」を除いた科目。

【留意点】モデル3の場合

社会福祉士国家試験の受験資格を取得するためには、社会福祉論や、児童福祉論、高齢者福祉論などのほか、1年次の共通科目として開講されている「社会学」と「心理学」も受験資格の取得に必須の科目です。

ソーシャルワーク関係の講義・演習・実習は内容が段階的に進みます。またソーシャルワーク実習では同時に並行して履修しなければならない科目があります。このため、開講されている学年で履修しておかないと、次の学年で履修すべき科目と時間割が重なって修得できなくなる可能性があります。1年次から計画的に履修していくことを勧めます。

詳しくは、学科や福祉系の科目を担当する専任教員及び教務係に相談して下さい。

モデル4：卒業＋教員免許取得＋社会福祉士国家試験受験資格取得

このモデルでは、人間生活学科を卒業するための必要単位のほかに、モデル1またはモデル2と、モデル3の表に示す“灰色塗り”の箇所の要件を合わせた科目群を取得します。

【留意点】モデル4の場合

この場合、社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目と、教員免許〈福祉〉の取得に必要な“教科に関する科目”の多くが重複するので、教員免許はモデル2の「中・高一種〈家庭〉＋高一種〈福祉〉」の取得を目ざすことを勧めます。

例年、入学生の10名前後がこのモデルを履修しますが、両方の資格取得を目ざすためには多くの指定された単位の修得が必要です。履修登録する単位数が多過ぎて負担になったり、ときには指定された必修科目と選択したい科目の時間割が重なり、履修を次年度以降に廻さざるを得ないことがあります。

各科目の開講学年は各年度の入学生に適用される「教育課程表」の通りに進行しますが、開講される曜日や時限は年度ごとに変わる可能性があり、次年度には別の取得すべき科目と時間割が重なるかも知れません。指定された科目の履修を開講年次以降に廻そうと考える場合、あらかじめ学科の専任教員か教務係に相談し、指定された単位が卒業までに修得できるよう確認したり、見通しを立てて履修登録を行って下さい。

詳しくは、教職か福祉系の科目を担当する専任教員及び教務係に相談して下さい。

4 その他の資格取得のための履修について

図書館司書又は司書教諭の資格を取得しようとする場合、2年次から開講される図書館情報学課程を履修しなければなりません。詳しくは学生便覧を参照して下さい。

この課程の科目群は北16条校舎で土曜日の午前や午後が開講されます。時間割編成の制約上、「司書」か「司書教諭」の何れかの資格を選んで取得を目ざします。

この課程を履修するためには、1年次の12月頃開催される説明会に必ず出席し、かつ履修者選抜によって履修資格を得る必要があります。説明会の時期が近づいてきたら教務係で確認したり、案内掲示を見過ごさないようにして下さい。

疑問な点は学科の専任教員及び教務係に相談して下さい。

なお、社会福祉主事任用資格は、厚生労働大臣が指定した社会福祉に関する34科目の中からいずれか3科目を履修すれば取得できます。この要件は、社会福祉士の国家試験受験資格や教員免許〈福祉〉の取得で充足し、人間生活学科の社会福祉分野の専門科目などの履修によっても容易に充たすことができます。

任用資格とは、実際に当該業務に就くことではじめて行使できる資格のことです。社会

福祉主事任用資格は資格証が発行されないのが一般的で、成績証明書で指定科目の単位取得が確認できれば資格を保有していることとなります。福祉施設の求人に応募したり、福祉分野の公務員試験を受ける際の履歴書に資格の保有を自記します。

詳しくは、福祉系の科目を担当する専任教員及び教務係に相談して下さい。

食物栄養学科

1 カリキュラムの概要

(1) 学科専門科目のカリキュラムの概要

食物栄養学科の学科専門科目のカリキュラムは、管理栄養士養成施設の指定基準に基づいて構成され、専門基礎分野と専門分野とから成り立っています。

専門基礎分野と専門分野は、それぞれ3つと8つの区分(教育内容)から成り立っています。

専門基礎分野の3つの区分は、「社会・環境と健康」・「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」・「食べ物と健康」です。

専門分野の8つの区分は、「基礎栄養学」・「応用栄養学」・「栄養教育論」・「臨床栄養学」・「公衆栄養学」・「給食経営管理論」・「総合演習」・「臨地実習」です。

「社会・環境と健康」では、人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境と健康の関わりについて理解します。

「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」では、人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、治療等についても理解します。

「食べ物と健康」では、食品の各種成分を理解し、食品の人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価について理解します。

「基礎栄養学」では、栄養とは何か、その意義について理解します。

「応用栄養学」では、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解します。

「栄養教育論」では、健康・栄養状態・食行動・食環境等を総合的に評価・判定する能力を養い、実践的な健康・栄養教育の理論と方法を修得します。

「臨床栄養学」では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理の方法について修得します。

「公衆栄養学」では、地域や職域等の健康・栄養問題を総合的に評価・判定する能力を養います。

「給食経営管理論」では、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養います。

「総合演習」では、専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養います。

「臨地実習」では、学外の実践活動の場(小学校、保健センター、病院等)での課題発見、解決を通して専門的知識および技術の統合を図ります。

学科専門科目は、全てお互いに関連しています。貴女の好き嫌いに関係なく、そ

の都度確実に理解しながら、1年次から4年次へと進むように心掛けることが大切です。

(2) 外国語科目について

外国語科目では、総合英語2単位が必修で、その他に4単位を取得する必要があります。

英語以外の言語としては、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語が開講されています。新たな外国語を履修する場合には、1年間4単位のみよりは、2年間8単位学ぶことが望ましいでしょう。

新たな外国語ではなく、英語をさらに学ぶことも有意義です。例えば、インターネットを使うにも必要です。就職または進学した所で、研究のためや最新の情報を得るにも必要です。なぜなら、これらの情報は、英文で書かれていることがほとんどだからです。

なお、本学科のカリキュラムは、1年次に「総合英語」(必修)を履修し、2年次に「科学英語」(選択)で理系の英文を、3年次・4年次にそれぞれ「総合演習B」(必修)・「卒業演習」(必修)で英語論文を読む機会があり、4年間英語を学べるように組まれています。

(3) 選択科目について

共通科目の選択科目

「数学」は、自然科学に属する分野が主となる本学科において、その基礎になる数学的な考え方を会得するために重要な科目です。大学の「数学」では、数学の技術を学ぶのではなく、考え方を学びます。

その他の科目は、大学を卒業する者として、広い教養をもつために必要な科目です。特定の分野に片寄らず、広く学んでおくことをお勧めします。

学問は分野によって考え方の基礎に違いがありますから、それぞれの分野の考え方を学んでおくことは重要です。

学科専門科目の選択科目

学科専門科目の選択科目は、学科専門科目を学ぶための基礎科目と、将来の進路によって選択する科目があります。

「はじめての化学」と「栄養士のための化学」は、学科専門科目の、食品学・栄養学・生化学などに関する科目の基礎となります。高等学校の「化学」や「生物」と重複する部分もありますが、実験に必要な知識を学ぶ科目ですので、しっかり身につけておく必要があります。

「栄養統計学」は、公衆栄養学や栄養指導など、その基礎に統計の知識が必要な科

目のために、学んでおくといいでしょう。

専門知識を学ぶ時も職業活動をする時も、知識・情報の伝達手段として文章表現が最も重要です。食物栄養の知識を吸収し、社会で生かすためにも「文章表現演習」で基本からしっかり学んで下さい。

4年次には「卒業演習」(必修)が開設されており、各人が一人の食物栄養学科専任教員を選び、その指導を受けます。このとき同時に「卒業研究」(選択)が開講されており、同時に選択することを強くお勧めします。

2 履修モデル

(1) 管理栄養士国家試験受験資格を得るためには

	1年	2年	3年	4年
共通科目	「聖書学概論」 必修2単位 「キリスト教学」 必修2単位 「人間学概論」 必修2単位 「情報処理」 必修2単位 「運動の実践A」 必修1単位 「運動の実践B」 必修1単位			
外国語科目	「総合英語」 必修2単位			
	選択必修： 4単位以上			
学科専門科目	必修： 90単位			
	選択：管理栄養士国家試験受験資格取得に関連する15科目 28単位 (資格必修科目については教育課程表の「資格 管理栄養士」欄を参照)			
選択科目	※他学科専門科目、他学部学科専門科目、教職に関する科目(指定科目*)、および協定校修得科目(本学教育課程表外の科目)は、合わせて8単位まで選択単位として算入できる			

* 14、15ページ参照

(2) 管理栄養士国家試験受験資格＋栄養教諭一種免許取得のためには

	1年	2年	3年	4年
共通科目	「聖書学概論」 必修2単位 「キリスト教学」 必修2単位 「人間学概論」 必修2単位 「情報処理」 必修2単位 「運動の実践A」 必修1単位 「運動の実践B」 必修1単位 「日本国憲法」免許必修2単位			
外国語科目	「総合英語」 必修2単位 選択必修： 4単位以上 ※ただし、「コミュニケーション英語」(2単位)、「ドイツ語演習」(2単位)、「フランス語演習」(2単位)、「中国語演習」(2単位)、「ロシア語演習」(2単位)の5科目の中から、1科目2単位以上必修			
学科専門科目	必修： 90単位 選択：・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な15科目 28単位 (資格必修科目については教育課程表の「資格 管理栄養士」欄を参照) ・栄養に係る教育に関する科目：「学校栄養教育Ⅰ」2単位、「学校栄養教育Ⅱ」2単位			
教職に関する科目	24単位以上 (学生便覧の「教職課程履修要項」を参照)			

(3) 管理栄養士国家試験受験資格＋食品衛生監視員・食品衛生管理者任用資格取得のためには

	1年	2年	3年	4年
共通科目	「聖書学概論」 必修2単位 「キリスト教学」 必修2単位 「人間学概論」 必修2単位 「情報処理」 必修2単位 「運動の実践A」 必修1単位 「運動の実践B」 必修1単位			
外国語科目	「総合英語」 必修2単位 選択必修： 4単位以上			
学科専門科目	必修： 90単位 選択：管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な15科目 28単位 (資格必修科目については教育課程表の「資格 管理栄養士」欄を参照)			
選択科目	共通科目(「環境と科学」)、学科専門科目(「はじめての化学」、「栄養士のための化学」)の中から1科目必修			

(4) 栄養士資格＋フードスペシャリスト資格認定試験受験資格取得のためには

	1年	2年	3年	4年
共通科目	「聖書学概論」 必修2単位 「キリスト教学」 必修2単位 「人間学概論」 必修2単位 「情報処理」 必修2単位 「運動の実践A」 必修1単位 「運動の実践B」 必修1単位			
外国語科目	「総合英語」 必修2単位 選択必修： 4単位以上			
学科専門科目	必修： 90単位 選択：フードスペシャリスト資格認定試験受験資格取得に必要な7科目 14単位 (資格必修科目については教育課程表の「資格 フードスペシャリスト」欄を参照)			
選択科目	共通選択科目・学科専門選択科目より6単位以上 ※他学科専門科目、他学部学科専門科目、教職に関する科目(指定科目*)、および協定校修得科目(本学教育課程表外の科目)は、合わせて8単位まで選択単位として算入できる			

* 14、15ページ参照

保育学科

1 カリキュラムの概要

保育学科のカリキュラムは、「保育の理論」「児童の理解」「障害児の理解」「保育内容」「保育の基礎技能」「実習」「専門研究法」の7領域に大きく区分されます。

「保育の理論」では、教育、保育、社会福祉の基礎理論を学び、保育者として必要な保育に対する考え方、保育技術の基にある理論的知識を習得することを目指しています。

「児童の理解」「保育内容」では、対象となる乳幼児・児童の心理学、保健、栄養、音楽、美術といった視点から学ぶと同時に、保育内容の理論と実践の基礎を習得します。

「障害児の理解」には、特別支援学校教諭免許取得科目群を配し、障がい児の心理的側面、生理的側面からの理解と、具体的な実践のための理論と方法を学びます。

「保育の基礎技能」では専門的な保育技能を修得すると同時に感性豊かな人間性を追求し、生き生きとした保育を展開する実践力の習得を目指します。

「実習」では、それまでに習得した基礎理論の理解と基礎技能の修得を踏まえ、2年次には同じ学園の藤幼稚園と、本学の実習協力園である羊ヶ丘藤保育園にて実習を行ない、その後学外の幼稚園（3週間）、福祉施設（2週間）、保育所（20日間）で実習を行ないます。さらに希望者は4年次に、幼稚園・福祉施設で実習することが可能です。また人数は限られますが、特別支援学校教諭免許の科目取得者は養護学校での障害児教育実習を行なう事になっています。

「専門研究法」では、保育現場で役立つ、より高度な専門技術や保育研究を構築するための知識技術等が配置されています。4年次の「保育・教職実践演習」では、3年間の学びを確認し、実践者に必要な意識や実践力を各自深められるような演習となっています。また、「保育学研究演習」「卒業研究演習」は、主に演習形式で、保育学科の専任教員によるゼミナールに所属し、各自の問題意識に応じて研究を深める場となります。3年次の「保育学研究演習」ではより深い専門知識を習得すると同時に、研究を進めるための基礎的トレーニングを行ないます。履修前に深めたい分野を絞っておくことが望ましいでしょう。「卒業研究演習」及び「卒業研究」は各自テーマを設定し、4年間の学修成果を論文や卒業制作としてまとめます。選択科目ですが履修することが望ましいでしょう。

さらに、「保育の理論」「実習」に配置されている2年次開講の子育て支援関連科目は、実際の親子との関わりの中でその専門性を深めるもので、本学独自の科目群となっています。

本学科では、幼稚園教諭一種免許、保育士資格、特別支援学校教諭一種免許の全ての資格取得が可能なようにカリキュラムを構成してあるため、科目が多くなっています。しかし、必ずしも全ての資格取得を行なう必要はありません。

以上のように本学科では、理論と実践科目を密接に配置し、実践能力を高め、優れた観察力、洞察力をもった保育者養成を目指します。そのため、学内における基礎理論の習得と同時に学外における実習が大きな比重を占めています。

この学科で何を学ぶのかは皆さん自身にかかっています。卒業後の進路を模索しつつ、充実した大学生活であるようにとスタッフ一同願っています。

2 履修モデル

モデル1：卒業＋幼稚園教諭一種免許取得

	1年	2年	3年	4年
共通科目	必修：10単位			
	「日本国憲法」2単位必修			
外国語科目	選択必修：6単位以上 ※ただし、「コミュニケーション英語」、「ドイツ語演習」、「フランス語演習」、「中国語演習」、「ロシア語演習」のうち、1科目2単位必修			
学科専門科目	幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」を履修			

モデル2：卒業＋幼稚園教諭一種免許取得＋保育士資格取得

	1年	2年	3年	4年
共通科目	必修：10単位			
	「日本国憲法」2単位必修			
外国語科目	選択必修：6単位以上 ※ただし、「コミュニケーション英語」、「ドイツ語演習」、「フランス語演習」、「中国語演習」、「ロシア語演習」のうち、1科目2単位必修			
学科専門科目	幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」を履修			
	保育士資格取得のための ・必修：「告示による科目」56単位・「運動の科学」2単位 ・選択必修：「告示による科目」のうち9単位以上			

モデル3：卒業＋幼稚園教諭一種免許＋特別支援学校教諭一種免許取得

	1年	2年	3年	4年
共通科目	必修：10単位			
	「日本国憲法」2単位必修			
外国語科目	選択必修：6単位以上 ※ただし、「コミュニケーション英語」、「ドイツ語演習」、「フランス語演習」、「中国語演習」、「ロシア語演習」のうち、1科目2単位必修			
学科専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」を履修 ・特別支援学校教諭一種免許を取得するために定められた指定科目を履修 			

モデル4：卒業＋幼稚園教諭一種免許＋特別支援学校教諭一種免許取得＋保育士資格取得

	1年	2年	3年	4年
共通科目	必修：10単位			
	「日本国憲法」2単位必修			
外国語科目	選択必修：6単位以上 ※ただし、「コミュニケーション英語」、「ドイツ語演習」、「フランス語演習」、「中国語演習」、「ロシア語演習」のうち、1科目2単位必修			
学科専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」を履修 ・特別支援学校教諭一種免許を取得するために定められた指定科目を履修 			
	保育士資格取得のための ・必修：「告示による科目」56単位・「運動の科学」2単位 ・選択必修：「告示による科目」のうち9単位以上			